

植物と人々の博物館メールマガジン

第 82 号 2021 年 12 月 1 日発行



雷を伴う風雨が夜半にあり、すっかり晴天の朝で、いよいよ冬が始まるのでしょうか。始発バスで小菅村につく朝の頃は霜で真っ白です。博物館は倉庫で、ライフラインは全くなく、かなり寒いので、冬の間はまた休館します。

神代植物公園のバラがきれいだというので久しぶりに行きました。写真 (pdf のみ) はボタニカル・アート展と菊花展です。野川沿いの紅葉も美しいです。小田原港に行き、金目鯛煮つけを食べてから、創業 600 年の歴史ある老舗に外郎 (漢方薬とお菓子) を買いに行きました。やっと少しの外出をしましたが、海外には当分出かけられないようです。

今年も途中から COVID19 のせいで小菅の雑穀栽培見本園に行くことができず、秋子さんにお世話になりました。とても良い種子継をしてくださったので、来年播種、栽培したい方に少しずつ差し上げます。栽培・加工・調理法あるいは装飾用など必要に応じてお伝えします。栽培してくださる方は、費用はいりませんから、メールください。

いろいろな方との出会いと、ご援助があり、新たな可能性が開けてきました。来年は楽しみです。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、ご一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日：11 月 11 日と 29 日に標本や図書の整理をしました。冬季は休館します。

2) 民族植物学ノオト： 第 15 号電子版は原稿募集中です。論文、随筆などなんでも、ぜひご寄稿ください。締め切りは 2021 年 12 月末、2022 年 3 月発行予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ (下記：ミュージアムグッズの項) で読めます。
<http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ (ミュージアムグッズ) に電子書籍 (既刊) の項で読めます。『第四紀植物』続いて第 9 章「農業文明および国の起源と現代」を書いており、年内に全章を書き終える予定です。また、『環境学習原論』は環境楽習会 3 回の座談会の意見を参考に増補改訂しました。ともに年内に公開する予定です。

一部公開中：『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』、『Essentials of Ethnobotany』の一部公開は来年から始めます。発行予定：『山村農人降矢静夫対談集』(降矢静夫・木俣美樹男)。これらは書き終えたら、電子出版にします。クリンネス (木俣美樹男 2022) は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

5) 寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」ほか。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation を始めました。

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のためにご協力を、よろしく申し上げます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。

郵便振込口座は下記です。講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会
口座番号：00100-2-665768

2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習理論・実践「環境学習原論」を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作りました。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。12 世紀、ルネサンスの先駆けであった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が存在するだけです。学ぶ意味や大学について改めて考え直したいです。このサイバー大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の協力（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。下記のセミナーの過去動画や予習・復習資料 pdf およびご案内は下記のサイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を探りたいです。セミナー座談会に参加ご希望の方は下記にメールください。ご案内や資料（ZOOM の URL）などお送りします。 kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男あて

○予定

第 4 回環境楽習会「環境学習原論」

日時：12 月 26 日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館および ZOOM

話題：気候変動に対応する暮らし（30 分）。座談会（90 分）。

話題提供者：藤村コノエさん（環境文明 21 代表、グリーン連合共同代表など）

第 3 回自給農耕ゼミ

日時：1 月 16 日（日）13：30～15：30

場所：カエルハウスおよび ZOOM

話題：(仮題)「都市に残された農地の未来と課題」(30 分)。座談会（90 分）。

話題提供者：高橋金一さん（農家）

* カエルハウスの主宰は片山薫さん（小金井市議会議員）で、家庭菜園や市民農園などの学習会を一緒に始めました。これまでの自給農耕ゼミの参加者の方も ZOOM 参加していただけると嬉しいです。

○報告

環境楽習会「読書会」 6名参加で、著者の明峯惇子さんも参加くださいました。

話題：街を耕す、先達明峯哲夫の著作をめぐって

課題図書：明峯哲夫 2016、生命を紡ぐ農の技術、コモンズ、東京。

小金井環境フォーラム 環境学習市民連合大学のセミナーを展示紹介しました。

第2回自給農耕ゼミ（小金井） 8名参加でした。

日時：11月23日（火祝）14：00～16：00

場所：カエルハウスおよびZOOM

話題：農山村の多面的機能、エコミュージアム、スタディ・ツーリズム

3. 雑穀街道普及会：

○ 報告

佐野川の宮本さんの茶畑と雑穀畑に相模原市長秘書青山さんを11月16日にご案内しました。雑穀街道について市長にご説明する機会をいただけるようお願いしています。12月17日に上野原市長にお目にかかります。

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。少しずつ、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletn/jnmpilvil.html>

4. 自然文化誌研究会

主な活動予定：詳細は下記ウェブサイトにあります。

~~~~~

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、藤盛礼恵（千葉、運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

環境学習市民連合大学 <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

~~~~~

写真：



神代植物公園のボタニカル・アート展



同上、菊花展



同上、バラ園から大温室を望む